

セアカゴケグモに 注意しましょう



セアカゴケグモはオーストラリアや東南アジアなどの熱帯、亜熱帯地域に生息しているクモです。船の輸入コンテナや積み荷などに付着して国内に侵入したと言われており、日本各地で生息が確認されています。京都市内でも平成18年に初めて生息が確認されて以降、年々生息域が広がっています。

メスだけが毒を持っていますが、習性はおとなしく、直接触れなければ咬まれることはありませんので、正しい知識を持って適切に対応しましょう。

特徴

●メス

体長 7～10mm (脚の部分を除いた長さ)
体色 光沢があった黒色で、腹部の表に赤い斑紋が、裏に砂時計模様があります。



メス表



メス裏

●オス

体長 4～5mm (脚の部分を除いた長さ)
体色 褐色で、腹部の表に白い斑紋が、裏に砂時計模様があります。



オス表



オス裏

●卵のう

大きさ 直径10～15mm
色 乳白色
形 球形



メスと卵のう



生息場所

日当たりの良い人工構造物のすき間や内部などに巣を作ります。



ベンチの裏



側溝のふたの裏



フェンスの支柱のすき間



水抜き管の内部

一匹見つかり、周囲にも潜んでいる可能性がありますので、
注意してください！

習性

- 攻撃性はあまりありませんが、手を出すとエサとまちがえて咬むことがあります。
- 刺激すると死んだふりをするので、注意してください。



セアカゴケグモに咬まれないための対策

- 溝掃除や庭の手入れなどをする時は、長そで、長ズボン、軍手、靴下などを着用しましょう。
- 屋外に置いてある物に触れる時は、セアカゴケグモがいないかを確認しましょう。
- セアカゴケグモがすみやすい場所は定期的に掃除し、すみにくい環境を作りましょう。

駆除方法

- その場で踏みつぶす。
- 市販のスプレー式殺虫剤を噴霧する。
(卵のうは踏みつぶしてください。)

一度発見した所は、定期的に見て、完全になくなったことを確認しましょう。



咬まれたときの症状と対処方法

- 咬まれた時、針で刺したような痛みを感じます。
- 咬まれた部分が腫れて赤くなり、しだいに痛みの範囲が広がることがあります。
- 通常は数時間から数日で症状は軽減しますが、まれに脱力感、頭痛、筋肉痛などの全身症状を引き起こすことがあります。(重症例では筋肉麻痺をおこすことがあります。)
- もしも咬まれた時は、患部を流水で洗い流し、できるだけ早く病院などでの治療を受けてください。その場合、咬まれたクモの死がいがあれば、持参することで適切な治療につながります。

国内での咬傷例

- 国内での咬傷例は、主に6月から10月に報告されています。
- 国内では、セアカゴケグモに咬まれて死亡した例はありません。



セアカゴケグモの生息域を広げないために、セアカゴケグモを発見した時は、その場で駆除を行ってください。
生きたままセアカゴケグモを持ち運ぶことは、法律で規制されています。

